

「ビンギョル地震 2003・5 No6」

佐々木さんの最終レポートです。彼は13日晚イスタンブールを出発し、帰国の途につきました。

また、彼の大阪の仲間たち（パソコン教室を中心にした）が折り鶴を折って、カンパも集めているそうです。

-----

5月9日(金)テレビもまた、ビンギョルでの余震(M5.0)伝えていた。

現地にはいた最中にも、小さな揺れは何度も感じたし、1週間足らずに700回を超える余震を記録したとのこと。マグニチュード4クラスの揺れが毎日のようにあって、不安で家には戻れない。「不安」を取り除くためには深い信頼で結ばれた「人間の交わり」が必要だ。

数度のトルコ地震の後でたくさんの被災者と接したが「余震への恐怖」が過敏ともいえるほど誰にも強い。

1999年のマルマラ地震の支援にデリンジェを訪れたCODE(NGOsKOBE)のメンバーは、ニーズ調査をするなかで丁寧に時間をかけて被災者たちとの信頼関係をつくっていった。建築専門のメンバーが「この家は少々の余震では壊れないよ」と簡単なアドバイスをしたら、国やヨーロッパから派遣された専門家が何度太鼓判を押しても決して戻らなかった自宅に、このKOBEからのひと言が彼らに戻らせたりした。親しくなった後再度訪問した翌朝「お前たちが来てくれたから、地震後初めてぐっすり眠れたよ」と、いつてくれた人たちもいた。

国・軍・赤新月社・国連・民間救援チーム・学生・・・たくさんの人たちが積極的に動いているが、ここトルコでは「生活再建支援」という概念が決定的に欠落している。「愛と望み」の彼女たちは私が出会ったなかで(唯一といってもいい)被災者への生活再建支援を積極的にはじめたグループだ。

その彼女たちに、今回のビンギョル地震への支援についても大きな教えをもらった。毎度のことながら、彼女たちには脱帽だ。

○崩壊した建物の大半は国の設備???

今回の被害状況

死者	177名	負傷者	520名
	(85名)		(115名)
		Celtiksuyu 寄宿学校での被災	
全壊	82戸	半壊	1,176戸
		一部損壊	1,399戸

全壊した建物の大半は国の設備である・・・と報道され、連日のニュースでもこのことが取りざたされている。政治話の好きなトルコ国民に格好の話題を提供しているが、要は「国が建てる建物には国会議員が関わっている、国会議員は建設業者に応援してもらって、建設業者は入札で国の建物を建てたがる、工事を請け負ったら経費を節約(手抜き)して・・・余剰金は？」という、わが日本でもお馴染みの話。げっそりする。

その汚い手で建てられた建物が生命を奪う。

今回、チェリティクス寄宿学校で、事務作業が行われる管理棟がほとんど無傷で残っているのに、その数十メートル隣の寄宿棟が決定的に破壊されたことが、全てを物語っている。私たちの世界の有り様までをそこで見た思いだ。

もういい。一握りの汚い手の彼らが物欲・財産欲がつくりあげようとする世界の有り様

はもうご免だ。

私は、そちらの側にいないことを「支援の連鎖」の輪のなかにいることを「愛と望み」の彼女らの生き様の側を選ぶ。

○学校の被害が目につくが

教育省によれば、31,493人の学生が今回の地震によって影響を受けたとのこと。  
都市部の27の学校のうち

4校は崩壊

9校は取り壊される必要がある

11校に軽度の被害

3校は無傷

周囲の村落の75の学校については詳細な調査結果が現在不明。

今日現在、学校再開のニュースは届いていない。

この国では6月中旬から9月中旬までが夏休みだ。それまでに一部再開の知らせがあるだろうか？

ビンギョルで出会ったTOG(大学生の支援チーム)らが「子どものための支援」を想定はしているが・・・具体的な手法を十分に会得しているかは疑問だ。

KOBEの手法が「折り鶴」と共にビンギョルまで届く手法は？

そんなことを、思っている。

#### ■募金について

募金にご協力して頂ける方は、下記の郵便振替口座にて、通信欄に「トルコ地震」と明記してください。なお募金全体の15%を上限として事務局運営・管理費に充当させていただきます。ご寄付を頂いた方のお名前は随時、同NEWSでご紹介させていただきます。

口座番号:00930-0-330579  
加入者名:海外災害援助市民センター  
\*通信欄に「トルコ地震」と明記してください。

#### ■ビンギョル支援(5月12日までの入金分/敬称略)

小松(津名郡)/龍野教会(龍野市)/神沢(三木市)/高田(神戸市)/大崎(明石市)/庄野(埼玉県)